

311 朝霞の次代を担う人材の育成



担当課 教育指導課

関連課 教育総務課、教育管理課、学校給食課

目指す姿

発達段階に応じた様々な教育活動により、児童生徒一人一人の豊かな心と健やかな体の育成が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

指標 1

規律ある態度の達成状況（％）

全小・中学校を対象に実施される「規律ある態度」のアンケート結果における平均達成率

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 89 | 91 | 90 | 90 |

指標 2

—

—

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実施内容

【新規】

【継続】

スクールカウンセラー7人を市内全小中学校へ配置、さわやか相談員5人、サポート相談員11人を配置。
食育啓発リーフレット「あさかをたべる」の作成及び配付。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

臨床心理士等の専門資格をもったスクールカウンセラーが小中学校に派遣されているが、カウンセラーへの相談のニーズは高く、現在の職員数で足りているか懸念される。市独自の相談員なども活用し、相談体制の充実を図っていただきたい。

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・児童・生徒の規律ある態度について、年度によって若干の課題は見受けられるが、全体として児童生徒の規律ある態度は、着実に育っている。
- ・スクールカウンセラーや各相談員を配置し、関係諸機関等と連携しながら、子どもが抱える課題に応じた支援を実施した。
- ・朝霞市食育推進委員会において、食育啓発リーフレットを作成した。

【外的要因】

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

ICT技術が急速に変化していく中で、児童生徒を取り巻く生活環境も大きく変化し、従来からの課題である不登校、問題行動等に加え、ネット上でのいじめの問題が社会問題となっている。また、家庭環境も多様化し、食事の摂り方も家庭により多様化してきている。児童生徒の豊かな心を育成したり、家庭と連携した食育を推進したりすることは、今後ますます重要になってくると思われる。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|-----------------|---------------------|-----------|-----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 教育委員会運営事業 | 5,448 | 5,308 | 5,378 | 継続 |
| 2 | 教育委員会事務局事務事業 | 4,377 | 4,645 | 3,978 | 継続 |
| 3 | 教育相談事業 | 32,502 | 38,674 | 34,149 | 継続 |
| 4 | 小学校図書整備事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 5 | 中学校図書整備事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 6 | ふれあい推進事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 7 | 教育指導支援事業 | 20,583 | 26,517 | 23,416 | 継続 |
| 8 | 教職員研修事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 9 | 学校保険事業 | 12,562 | 12,679 | 12,628 | 継続 |
| 10 | 児童・生徒・教職員健康管理事業 | 51,506 | 53,783 | 56,062 | 継続 |
| 11 | 学校給食運営事業 | 937,247 | 867,738 | 908,559 | 継続 |
| 12 | 給食センター管理事業 | 142,418 | 121,693 | 116,568 | 継続 |
| 13 | 給食食材放射性物質測定事業 | 3,377 | 3,741 | 3,938 | 休止・廃止 |
| 14 | 自校給食室管理事業 | 109,063 | 25,335 | 31,220 | 継続 |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 1,319,083 | 1,160,113 | 1,195,896 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|-----------|-----------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 1,319,083 | 1,160,113 | 1,195,896 |

6 現状と課題の分析

- ・不登校児童生徒が抱える背景や課題は多様化しており、保護者によっては教育相談を実施することができない家庭もある。問題も複雑化したりしており、関係課や医療等、関係機関との連携が一層重要となる。
- ・子どもを取り巻く生活環境が変化し、生活の中で体を動かす機会が減少してきている。

7 今後の展開

- ・教育相談活動のさらなる充実を図る。特に、不登校児童生徒の教育機会の確保に向け、児童生徒個人への働きかけにとどまらず、家庭等の生活環境への働きかけにも重点を置く。相談員やスクールソーシャルワーカー等による家庭訪問を通して、積極的に情報を収集し、実態を把握し、児童生徒の個に応じた対応を図る。
- ・各小・中学校における体力向上推進委員会の活動を充実させ、各学校の実態に応じた児童生徒の体力向上のための取組を進める。

8 行政と市民の役割分担

不登校児童生徒への対応や食育推進活動においては、家庭の協力なくしては行えないので、今後とも家庭（保護者）との連携を推進する。食育についてはアンケートやリーフレットの配布をとおして啓発活動を行い、市民に今まで以上に食育の重要性を認識してもらう。

9 所管部の総括

児童生徒の健全育成は教育の根幹にかかわる重要な施策である。学校において、確かな学力の育成を図るうえで、豊かな心及び健やかな体とのバランスは欠かすことができないものである。生徒指導や教育相談体制の整備充実を図り、教育効果のさらなる向上を目指し、広く家庭や地域との協力・連携を推進していく。また、社会福祉・医療など他機関との連絡調整を密に図り、児童生徒一人一人に寄り添った施策をより一層推進する。

312 確かな学力と自立する力の育成



担当課 教育指導課
 関連課 教育総務課

目指す姿

主体的・対話的で深い学びにより、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるとともに自立する力の育成が図られている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標3 安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる
 (ウ) 魅力ある教育の推進

指標 1 | 【まち・ひと・しごと】



学習状況調査における平均正答率を上回った科目数（小学校）2科目（科目）

全国学力・学習状況調査（小学校）において、市の平均正答率が全国平均を上回った科目数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 2 | 2 | 2 | 2 |

指標 2 | 【まち・ひと・しごと】



学習状況調査における平均正答率を上回った科目数（中学校）3科目（科目）

全国学力・学習状況調査（中学校）において、市の平均正答率が全国平均を上回った科目数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 3 | 3 | 3 | 3 |

1 実施内容

【新規】

（この欄は新規施策のみの記載です。継続する施策は「【継続】」欄に記載してください。）

【継続】

小学校低学年補助教員を全小学校へ合計27名配置。
 あさか・スクールサポーターを全小・中学校へ合計17名配置。
 市内各小・中学校のコンピュータの活用推進及び保守・点検。
 朝霞市教育委員会研究開発学校の指定と研究発表会の開催。
 小学校英語指導助手を市内10校に対し7人配置。全小学校の3・4年生の各学級に年間15回、5・6年生の各学級に年間50回外国語活動のチーム・ティーチングを実施。
 中学校英語指導助手を市内全中学校に各1名配置。英語担当教員とチーム・ティーチングを実施。
 通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒支援員を市内関係各小・中学校へ3,000回以上派遣。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

教科等の指導員を、昨年度はコロナ禍で任命できなかったとのことだが、高い専門性を持った教員を他校へ派遣して専門領域の指導方法を広めるよい機会であるので、感染対策に留意しながら再開できるようにしていただきたい。

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、中止となった。小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーター、英語指導助手などの人的配置は計画通り実行できており、児童生徒一人一人へのきめ細かな学習支援・生徒指導が進められているが、外国籍及び日本語を母語としない帰国児童・生徒が依然高止まり傾向にあり、日本語指導支援員の必要性は依然として高い。教職員研修に関しては、新型コロナウイルス感染防止に努めながら、規模を縮小するなどして、研究開発学校の研究発表や校内研修をすすめ、教職員の資質向上が図られている。

【外的要因】

（この欄は外的要因のみの記載です。）

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

小学校1・2年生における学習支援や生徒指導及び小学校3年生から中学校3年生までの学力向上に係る、個に応じた指導の充実を図るためには、小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーターなどの人的配置が不可欠であり、学校規模に応じた配置を考えると、増員の検討も必要である。また、GIGAスクール構想の推進に伴い、一人一台タブレット端末の効果的な活用が必要である。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|---------------------------|---------------------|---------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 教育指導支援事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 2 | 教職員研修事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 3 | 小学校図書整備事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 4 | 中学校図書整備事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 5 | 特色ある学校づくり支援事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 6 | 進路学習事業 | 1,235 | 787 | 767 | 継続 |
| 7 | 国際理解教育事業 | 48,113 | 59,868 | 55,068 | 継続 |
| 8 | 日本語指導充実事業 | 2,957 | 2,926 | 1,536 | 継続 |
| 9 | 小学校コンピュータ整備事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 10 | 中学校コンピュータ整備事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 11 | 育み支援バーチャルセンター事業（学校巡回相談事業） | 776 | 776 | 775 | 継続 |
| 12 | 小学校特別支援学級事業 | 20,866 | 27,287 | 29,753 | 継続 |
| 13 | 中学校特別支援学級事業 | 8,815 | 9,862 | 11,521 | 継続 |
| 14 | 特別支援教育事業 | 18,754 | 18,394 | 21,039 | 継続 |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 101,516 | 119,900 | 120,459 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|---------|---------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 101,516 | 119,900 | 120,459 |

6 現状と課題の分析

35人学級の実現を漸次進めていくことが閣議決定される中、小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーターの増員が求められることが予想される。また、GIGAスクール構想の推進において、効果的にタブレット端末を活用するため、教職員の資質能力の向上を図るとともに、適切な活用について、保護者、児童生徒の理解を得ることが必要である。

7 今後の展開

今後も、あさか・スクールサポーター等の学校現場への人的配置については、学校規模に応じた適正配置をしていく。また、学校の課題解決に対応した配置となるよう、それぞれの学校の実態を事前に把握する。情報教育に係る学習環境の整備・充実に関しては、児童生徒用・教職員用のコンピュータの入替を計画的に進めるとともに、教員の指導力を高めていく。

8 行政と市民の役割分担

朝霞で育つ子どもたち一人一人のよさや可能性を伸ばすために、確かな学力の定着を図るとともに、豊かな体験活動を通して、たくましく生きる力を育む教育の実現をめざし、行政と市民の関与バランスを維持する。今後も、地域の人材の活用が不可欠である。また、今後コミュニティ・スクールに代表される「社会に開かれた学校」から「社会とともにある学校」へと改革を進めるには、市民の力がこれまで以上に必要となってくる。

9 所管部の総括

児童生徒一人一人のきめ細かな学習支援、生徒指導という点で、市独自の人的配置は大変効果的である。教育研究奨励費を活用した若手教職員の自己研修や研究開発学校助成を活用した学校研修についても、教員の資質向上には欠かすことができないものである。情報教育については、ICT環境が急速に進展する中、プログラミング教育の必修化、GIGAスクール構想の推進など環境整備とともに活用・指導面での充実が求められている。まずは、学校における教育を充実させることで、全ての児童・生徒の確かな学力と自立する力の育成を目指す。

313 質の高い教育を支える教育環境の整備充実



担当課 教育総務課

関連課 教育管理課、教育指導課、学校給食課

目指す姿

学校施設の改修や教職員の資質・能力の向上を図ることなどにより、児童生徒が安全で安心して学びやすい環境で学校生活を送っている。

まち・ひと・しごと目標 —

指標 1



「教科等指導員」を任命した教科等の数（教科）

指導のリーダーとなる知識や技能を持つ「教科等指導員」を任命する教科等の数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 10 | 0 | 11 | 15 |

指標 2



—

—

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実施内容

【新規】

小学校少人数学級へ対応するため普通教室への転用改修工事の実施（三小、六小、十小）及び増築工事の設計に着手（六小）

【継続】

朝霞市教育委員会研究開発学校の指定と研究発表会の開催（七小・八小・三中）。

体育館床改修工事（八小）、校内普通教室整備工事（二中）、武道館屋根防水改修工事（三中）、その他の施設改修工事の実施。

屋内運動場空調設備設置事業の設計（二中・三中・四中）及び工事（十小・一中・五中）の実施。

特認校（五中）の生徒募集（申請及び許可人数 37人）。

中学校自由選択制の実施（申請及び許可人数（特認校含む）138人）。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

「教科等指導員」は、任命する数を増やすことができた。教職員の資質は研究開発学校の指定・校内研修の推進や教育に関する研究成果等のデータのアーカイブ化を進めることなどにより向上を図っている。学校の修繕等は校舎、体育施設、屋外環境の工事等を実施し、快適で安心・安全な教育環境の整備に努めた。また、平成30年度から5か年で小・中学校の屋内運動場にエアコンを整備する事業を計画し、順次実施している。なお、小学校の少人数学級への対応のため、普通教室への転用改修工事を実施するとともに、第六小学校と第九小学校の増築を決定し、今後、設計等を進めていく。中学校自由選択制は138人の申請・許可を行い、そのうち第五中学校の特認校利用者は37人で、通学区域の弾力化並びに第五中学校の活性化に努めている。

【外的要因】

公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律の施行（令和3年4月1日）に伴い、小学校の学級編成の標準を段階的に引下げ（40人→35人）により、新たに普通教室の整備を令和7年度までに行っていく必要が生じている。

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

教職員の資質向上のためには教職員研修が不可欠であり、効果的なタブレット端末活用のための研修等をより充実していく必要がある。学校施設は施設の長寿命化を図るため改修等を計画的に実施していく必要がある。平成30年度から5か年で屋内運動場にエアコンを設置する設計・工事を順次実施している。小学校の少人数学級への対応は、普通教室への転用改修工事を計画的に実施するとともに2校の増築工事に向けた設計等を行っていく必要がある。また、特認校制度は第五中学校の活性化のために継続する必要がある。自由選択制度は就学指定校の変更を弾力的に運用する意味合いから引き続き必要である。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|---------------------|---------------------|-----------|-----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 教職員配置事業 | 13,660 | 29,626 | 35,799 | 継続 |
| 2 | 教職員研修事業 | 4,387 | 4,482 | 4,482 | 継続 |
| 3 | 教育指導支援事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 4 | 児童・生徒・教職員健康管理事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 5 | 特色ある学校づくり支援事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 6 | 交通指導員配置事業 | 55,409 | 66,675 | 76,284 | 継続 |
| 7 | 給食センター管理事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 8 | 給食食材放射性物質測定事業【再掲】 | - | - | - | 休止・廃止 |
| 9 | 自校給食室管理事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 10 | 学校環境衛生事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 11 | 小学校コンピュータ整備事業 | 78,724 | 512,592 | 72,073 | 継続 |
| 12 | 小学校運営事業 | 101,546 | 137,178 | 125,236 | 継続 |
| 13 | 小学校教育振興事業 | 17,355 | 12,294 | 20,458 | 継続 |
| 14 | 小学校教材教具整備事業 | 39,088 | 90,902 | 48,746 | 継続 |
| 15 | 小学校施設改修事業 | 244,303 | 49,623 | 201,547 | 継続 |
| 16 | 小学校施設管理事業 | 214,298 | 216,571 | 196,748 | 継続 |
| 17 | 小学校図書整備事業 | 15,673 | 17,837 | 18,010 | 継続 |
| 18 | 中学校コンピュータ整備事業 | 46,907 | 248,666 | 42,142 | 継続 |
| 19 | 中学校運営事業 | 63,261 | 67,406 | 75,722 | 継続 |
| 20 | 中学校教育振興事業 | 29,711 | 17,283 | 33,033 | 継続 |
| 21 | 中学校教材教具整備事業 | 24,357 | 21,997 | 43,645 | 縮小 |
| 22 | 中学校施設改修事業 | 83,184 | 226,595 | 375,296 | 縮小 |
| 23 | 中学校施設管理事業 | 146,140 | 122,721 | 109,008 | 継続 |
| 24 | 中学校図書整備事業 | 11,334 | 10,670 | 10,469 | 継続 |
| 25 | 学校環境衛生事業 | 4,501 | 4,286 | 4,415 | 継続 |
| 26 | 就学・学齢簿整備事業 | 4,677 | 4,975 | 4,921 | 拡充 |
| 27 | 小学校教育扶助事業 | 48,011 | 56,570 | 54,424 | 継続 |
| 28 | 第五中学校活性化対策事業 | 17,138 | 21,360 | 29,511 | 継続 |
| 29 | 中学校教育扶助事業 | 50,409 | 44,745 | 52,244 | 継続 |
| 30 | 通学区域整備事業 | 1,438 | 1,440 | 1,259 | 継続 |
| 31 | 入学準備金・奨学金貸付事業 | 17,861 | 14,747 | 17,520 | 継続 |
| 32 | 栄町学校給食センター解体事業 | - | - | 10,227 | 継続 |
| 33 | 小学校特別支援学級事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 34 | 中学校特別支援学級事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 35 | 学校運営協議会事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 36 | 小学校少人数学級整備事業 | - | - | 15,219 | 継続 |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 1,333,372 | 2,001,241 | 1,678,438 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|-----------|-----------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 1,333,372 | 2,001,241 | 1,678,438 |

6 現状と課題の分析

教育環境の充実のため、限られた財源の中ではあるが、財政状況や国の施策の動向を踏まえ、児童・生徒数の推移や施設の状況を的確に把握し、必要性や緊急性に配慮しながら、計画的な改修工事等を実施していく必要がある。

7 今後の展開

教職員研修は、教職員の資質向上のため引き続き実施していく。災害時に避難所となる屋内運動場のエアコン設置工事は平成30年度から3校ずつ、5か年で工事を実施しており、令和4年度に完了する。老朽化していく学校施設の改修・修繕については、学校施設長寿命化基本方針及び公共施設マネジメント実施計画に基づき実施していく。小学校の少人数学級への対応は、普通教室への転用改修工事を計画的に実施するとともに2校の増築工事に向けた設計等を実施していく。特認校制度及び中学校自由選択制度は中学校生活が充実したものになるように継続して実施していく。

8 行政と市民の役割分担

市民（児童・生徒）の意見を取り入れながら、教育環境の充実を推進していく必要がある。

9 所管部の総括

GIGAスクール構想に伴う効果的なタブレット端末活用を含め、教育に関する研究成果等のデータのアーカイブ化を進めることなどにより、教職員の資質・能力の向上に努めていく。教育環境の整備充実のため、屋内運動場の空調設備設置工事や小学校少人数学級への対応のための普通教室への改修工事等を計画的に進めていくとともに、老朽化の進む校舎等を計画的かつ緊急性を要する箇所から順次改修、整備を実施していく。通学区域の弾力化を推進するため、中学校で特認校制度及び中学校自由選択制度を実施している。各中学校はこの制度を活用し、引き続き魅力ある学校づくりを行っていく。

314 学校を核とした家庭・地域との連携・協働の推進



担当課 教育指導課

関連課 生涯学習・スポーツ課、教育管理課

目指す姿

学校において地域の人材が教育活動に関わることで、地域に根ざした特色ある学校づくりが推進されている。また、地域における奉仕活動・体験活動・防犯活動等を推進することにより、地域で子供を育てる意識が醸成され、地域の教育力が活性化している。

まち・ひと・しごと目標 基本目標3 安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる
(ウ) 魅力ある教育の推進

指標 1



学校応援団の活動人数（人）

市内小・中学校で1年間に活動した学校応援団の総人数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 3,241 | 3,261 | 1,686 | 1,000 |

指標 2

【まち・ひと・しごと】



ふれあい推進事業の参加者数（人）

中学校区ごとに実施しているふれあい推進事業に参加した方の延べ人数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 8,776 | 0 | 0 | 7,500 |

1 実 施 内 容

【新規】

学校運営協議会を朝霞第三小学校、朝霞第七小学校、朝霞第十小学校、朝霞第二中学校で立ち上げ、合計39名を委員に任命した。

【継続】

- ・各小・中学校において、地域の様々な分野の専門的な知識や技能を有する市民を、支援員として授業や部活動、教育環境整備等に活用した。
- ・学校運営協議会を朝霞第二、第五、第九小学校で立ち上げ、合計28名を委員に任命した。
- ・小中学校6校で学校評議員を校長の推薦に基づき、各学校5名委嘱した。
- ・関係各団体代表者及び中学校区事務局長等で推進委員会を開催したが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、ふれあい祭り等は中止した。（全中学校区で実施）
- ・コロナ禍での2年度目に入り、活動を継続した6団体（サークル1、PTA等5）に対し、補助金を交付するなど支援を行うとともに、家庭教育学級の活動報告集を作成、配布し、次年度の活動に向けた周知・啓発を行った。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、各学校において地域の様々な分野の専門的な知識や技能を有する市民を支援員として授業等に活用し、特色ある学校づくりをそれぞれの学校の実態を踏まえて進めている。
- ・コミュニティ・スクールの立ち上げに伴い、地域や関係機関との連携の在り方について学校の教育活動を見直すこともできた。
- ・ふれあい推進事業については、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、ふれあい祭り等は中止した。
- ・コロナウイルス感染症の収束は先行き不透明であるが、個々の学級に対しては、引き続きの支援を行い、家庭での教育の推進に努めていく。

【外的要因】

コロナ禍の中ではあるが、個々の学級ができる限り工夫し、家庭教育学級に取り組んでいる。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

- ・日常生活の中で、社会のルールやモラル等を子どもたちに教え伝えていくうえで、大人の学びも重要なものとなっており、家庭教育学級の必要性は高い。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|----------------|---------------------|--------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 学校運営協議会事業 | 1,666 | 2,285 | 4,903 | 拡充 |
| 2 | ふれあい推進事業 | 2,839 | 3,393 | 757 | 継続 |
| 3 | 音楽活動事業 | 7,292 | 2,379 | 4,396 | 継続 |
| 4 | 特色ある学校づくり支援事業 | 58,307 | 66,889 | 57,206 | 継続 |
| 5 | 家庭教育推進事業 | 6,336 | 3,120 | 3,100 | 継続 |
| 6 | 交通指導員配置事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 7 | 放課後子ども教室事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 76,440 | 78,066 | 70,362 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|--------|--------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 76,440 | 78,066 | 70,362 |

6 現状と課題の分析

- ・特色ある学校づくり支援事業では、数値に表れない学校応援団等、ボランティアによる支援員の活用が進められている学校もある。今後、社会に開かれた学校づくりという面でも、コミュニティ・スクールの立ち上げを一つの契機として地域と一体となった学校づくりを推進していく必要がある。
- ・ふれあい推進事業は、地域に根ざした活動となった一方で、マンネリ化してきたという声も聞く。地域と一体となった学校づくりに位置づけ、実施内容等を検討していく必要がある。
- ・コロナ禍により、集まることが制限される中でも、少ないながら家庭教育学級は継続されている。現状の回復を望み、学級を運営する団体等に対して、きめの細かい支援を行っていく。

7 今後の展開

- ・事業としての取組を継続して推進していくと同時に、ボランティアの活用を含めた内容の充実を図る。
- ・令和3年度より、さらに市内3校に学校運営協議会を設置するなど、学校・家庭・地域のつながりをさらに深めていく。
- ・共働き家庭が増え、ライフスタイルも大きく変わっているが、家庭教育の在り方は変わらぬよう、講演会や研修会を通して、周知・啓発を継続していく。

8 行政と市民の役割分担

- ・ふれあい推進事業など、すでに市民参加による活動が定着してきている。また、特色ある学校づくり支援事業においても、地域住民の協力が増えてきている。
- ・引き続き、学校・家庭・地域が連携した取組を継続していく。また、今後「社会に開かれた学校」から「社会とともにある学校」へと改革を進めるには、市民の力がこれまで以上に必要となってくる。

9 所管部の総括

全中学校区において、ふれあい推進事業が実施され、創意・工夫ある取組が地域の行事として定着している。今後も各中学校区における事業内容について、創意工夫を重ねていく必要がある。ふれあい推進事業と音楽活動事業、いずれも児童生徒の豊かな心をはくむ意味合いから不可欠な事業である。また、今後も各学校においては、学校応援団とのさらなる連携をしていく必要がある。一方、学校・家庭・地域の連携を図るためには、地域とともにある学校づくりが求められている。今年度は、コミュニティ・スクールが9校となったが、引き続き、地域の教育力を生かすとともに、学校を核とした活動をより一層推進し、学校・地域、双方の連携強化につなげられるような施策の充実を図りたい。今後も、学校教育と生涯学習との連携が必要となってくると思われる。

321 生涯学習活動の推進



担当課 生涯学習・スポーツ課

関連課 —

目指す姿

市民の学習ニーズに応えた学習や学習情報の提供及び活動の充実が図られ、いつでも、どこでも、誰でもが学べる生涯学習環境が整っている。また、市民による自主的な活動が活発に行われるとともに、学習の中心となる人材の育成と活用が図られている。

まち・ひと・しごと目標 —

指標 1

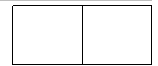


事業参加者満足度 (%)

生涯学習各種事業における満足度

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 89.1 | 89.2 | 93.5 | 94.5 |

指標 2



—

—

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実施内容

【新規】

・放課後子ども教室の令和4年度夏季休暇期間中の開催に向けて検討を行った。

【継続】

- ・社会教育委員会議を3回開催した。会議では、第3次生涯学習計画の進捗管理を行うとともに、計画の後期期間の見直しにあたり、施策の体系や計画の推進について建議いただき、方向性が定まるに至った。
- ・生涯学習ガイドブック「コンパス」を発行し、生涯学習情報の周知を図った。また、市民等の自主的な学習活動に対し、補助金を交付し、団体等の活動支援を行った。
- ・コロナ禍の2年度目となり、市民企画講座、生涯学習体験教室、放課後子ども教室など各種事業を工夫しながら実施し、生涯学習の啓発に努めた。
- ・子ども大学あさかでは、昨年度同様、規模を縮小し、リモート開催としたが、97.8%の高い満足度をいただいた。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】様々な分野でデジタル化が進行する一方、取り残されている人々もいる。コロナウイルスのワクチンの接種に際し、高齢者がインターネットを使えず、電話に殺到したのはその例である。デジタル社会は時代に即したリテラシーを要求しているが、取り残された方々を救うのも生涯学習のテーマではないか。
【社会教育委員会議】市と市民がSNSで繋がることができることを、更に周知していただきたい。また、学習機会や情報提供における「ICTの活用」推進を、今後何らかのかたちで生涯学習計画の基本構想に含めることを検討いただきたい。

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

コロナ禍における2年度目の中ではあったが、定期に社会教育委員会議を開催（1,2回は公開、3回は書面）し、第3次生涯学習計画の後期期間の見直しに伴う施策の体系や計画の推進方法等について、建議いただき、本市の生涯学習の方向性が明示された。また、事業展開においては、昨年度の実績を更に検証したうえで、より多くの生涯学習関連事業を実施することができた。

【外的要因】

いまだ多くの参加者を集めた講演会や研修会は開催できないものの、開催方法等を工夫し、多くの事業が実施できた。

4 必要性

1 2 3 ④ … 社会的なニーズは増加傾向にある

コロナ禍で自粛や制限のあるライフスタイルとなっている中、市民が生涯教育を求めるニーズは以前にも増して高まりを見せている。定員数の制限や時間短縮など、コロナ対策を講じつつ質の高い学習プログラムを提供していく。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|--------------|---------------------|--------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 人権教育振興事業 | 8,978 | 4,954 | 6,779 | 継続 |
| 2 | 成人式事業 | 9,660 | 11,510 | 7,109 | 継続 |
| 3 | 生涯学習啓発推進事業 | 23,733 | 17,327 | 19,926 | 継続 |
| 4 | 生涯学習計画策定事業 | 0 | 4,654 | 6,815 | 休止・廃止 |
| 5 | 放課後子ども教室事業 | 9,296 | 9,742 | 8,329 | 継続 |
| 6 | 家庭教育推進事業【再掲】 | — | — | — | 継続 |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 51,667 | 48,187 | 48,958 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|--------|--------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 51,667 | 48,187 | 48,958 |

6 現状と課題の分析

学校・家庭・地域が連携し、つながる社会教育を目指していくが、コロナ禍により一堂に会した連携は難しい。しかしながら、リモートなどの手法を用いての連携や協働は容易なものとなってきたため、学校や大学、企業などの民間機関、NPO等とのネットワーク体制を構築し、新しい生涯学習の提供方法などに挑戦していく機会と捉える。

7 今後の展開

第3次朝霞市生涯学習計画も令和4年度から後期期間を迎える。社会は着実にAI化、デジタル化の時代であり、人々の学習機会も多種多様となっているが、引き続き本計画の基本理念である「一人一人が心豊かにともに学び 生きるまち あさか」に基づき、①いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができる生涯学習社会の実現、②人と人をつなぐ生涯学習社会の実現、③知の循環型社会の実現を目指し、各種生涯学習施策を推進していく。

8 行政と市民の役割分担

第3次朝霞市生涯学習計画に則り、市は市民企画講座やボランティア登録した講師による体験教室などを開催し、市民が学習に参画する機会をサポートしていく。よって、市は市民とともに協働での学習活動の展開を構築していく。

9 所管部の総括

コロナ禍も2年度目となり、生涯学習施策全般に渡って、従前のような活動ができないところではあるが、昨年度（令和2年度）よりも本年度は実施方法等、考慮して着実に進歩した事業展開を行えた。新型コロナウイルス感染症の収束については、いまだ先行きが不透明ではあるが、このような時にこそ、必要であるものが生涯学習であり、新たな学びの構築に向けて施策を推進していく。

施策評価シート（対象：R3年度実施施策）

322 学びを支える環境の充実

担当課 中央公民館
 関連課 図書館、文化財課



目指す姿

「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」が学べる施設運営が図られ、市民ニーズに応じた学習、文化活動が充実することにより、市民は教養や健康の維持向上を図る機会を享受し、豊かな社会生活を営んでいる。

まち・ひと・しごと目標 —

指標 1

事業参加者数（人）

公民館、図書館、文化財課が行う生涯学習事業の参加者総数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 65,137 | 21,934 | 29,705 | 70,000 |

指標 2

—

—

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実施内容

【新規】

- ・内間木公民館の空気調和設備改修工事に必要な設計業務委託を実施した。
- ・図書館では施設長寿命化などのため大規模改修工事を実施した。また電子図書の提供を開始した。
- ・博物館では「朝霞にファン・ゴッホ！—日本初公開の水彩画に観るファン・ゴッホの新たな魅力—丸沼芸術の森コレクション展」を開催した。
- ・展示ケース、展示用照明器具を購入した。

【継続】

- ・公民館では各種主催事業の実施、利用団体への部屋の貸出しを行った。また、施設の維持管理、必要な修繕を実施した。
- ・図書館では、施設の維持管理、修繕を実施。また、資料の選定、保存、管理、貸出を実施したほか、第3次子ども読書活動推進計画を策定した。
- ・博物館では、展示、教育普及、資料調査、資料保存及び施設の維持管理を実施した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

- ・各審議会において、事業計画や新規の取組みなどについて承認をいただいた。今後も利用者のニーズを把握しながら運営を行うよう意見をいただいた。

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

- ・指標1について、公民館においては新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ前年度からは回復し、概ね計画通りに各種事業を実施できた。
- ・図書館においては、利用者への安定的な資料の提供を行うことができ、また施設管理についても必要な修繕を行うことができた。
- ・博物館では、コロナ禍により開催できない事業もあったが、感染症対策を講じ、各種事業を開催し、昨年度より多くの参加を得た。

【外的要因】

新型コロナウイルス感染症の影響により、計画した事業の中止・延期・変更及び各種講座において定員を減らして実施したことにより、事業参加者数が減少した。

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

生涯学習における様々な学びを支えるため、中央公民館、文化財課、図書館ともに、今後もそれぞれの事業の継続が必要である。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|---------------|---------------------|---------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 西朝霞公民館運営事業 | 18,292 | 19,172 | 19,697 | 継続 |
| 2 | 中央公民館運営事業 | 27,872 | 29,395 | 34,195 | 継続 |
| 3 | 東朝霞公民館運営事業 | 17,340 | 17,837 | 14,205 | 継続 |
| 4 | 内間木公民館運営事業 | 12,141 | 12,852 | 13,729 | 継続 |
| 5 | 南朝霞公民館運営事業 | 12,866 | 11,043 | 11,130 | 継続 |
| 6 | 北朝霞公民館運営事業 | 17,649 | 18,235 | 23,256 | 継続 |
| 7 | 図書館運営事業 | 139,707 | 132,529 | 147,080 | 継続 |
| 8 | 図書館北朝霞分館運営事業 | 65,476 | 67,746 | 67,705 | 継続 |
| 9 | 博物館運営事業 | 42,519 | 35,514 | 63,680 | 継続 |
| 10 | 西朝霞公民館管理事業 | 12,284 | 12,749 | 12,872 | 継続 |
| 11 | 中央公民館管理事業 | 42,643 | 40,928 | 46,762 | 継続 |
| 12 | 東朝霞公民館管理事業 | 13,526 | 12,849 | 16,664 | 継続 |
| 13 | 内間木公民館管理事業 | 19,494 | 18,559 | 17,658 | 継続 |
| 14 | 南朝霞公民館管理事業 | 13,954 | 17,919 | 16,764 | 継続 |
| 15 | 北朝霞公民館管理事業 | 12,736 | 12,422 | 13,222 | 継続 |
| 16 | 図書館管理事業 | 37,520 | 35,860 | 33,768 | 継続 |
| 17 | 図書館北朝霞分館管理事業 | 3,054 | 3,065 | 2,968 | 継続 |
| 18 | 博物館管理事業 | 34,941 | 44,877 | 43,569 | 継続 |
| 19 | 施設改修事業（中央公民館） | 12,691 | 39,160 | 4,098 | 継続 |
| 20 | 施設改修事業（図書館） | | 11,303 | 375,439 | 休止・廃止 |
| 21 | 施設改修事業（博物館） | 30,720 | 0 | 0 | 休止・廃止 |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 587,425 | 594,014 | 978,461 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|---------|---------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 587,425 | 594,014 | 978,461 |

6 現状と課題の分析

限られた予算で事業の実施や適切な施設の維持管理を行い、利用者数、図書等の貸出し点数、来館者数の増加や、利用者満足度を高めていく必要がある。

7 今後の展開

時代の変化や情報通信機器の普及、新型コロナウイルスの影響で利用状況や利用方法にも変化がみられる。今後もこれらの状況を注視し、利用者ニーズの適確な把握に努め、公民館、図書館、博物館における市民サービスのあり方を考えていく必要がある。

8 行政と市民の役割分担

各施設の管理維持及び施設運営は、行政が主体となり実施する。各課の主催事業は、アンケートなどによる市民の声を反映させながら実施する。また、市民との協働による事業を、今後も継続していく。

9 所管部の総括

引き続き、新型コロナウイルスの感染対策を講じ、適切な施設運営に努めてきたと認識している。今後も市民ニーズの的確な把握に努め、限られた予算の中で利用者数、貸出冊数、来館者数の増加を図れるよう、新たな取り組みを検討し、市民満足度の向上に努める必要がある。

331 スポーツ・レクリエーション活動の推進



担当課 生涯学習・スポーツ課

関連課 —

目指す姿

誰でも いつでも どこでも楽しめる生涯スポーツ社会の実現が図られ、市民が日々スポーツ・レクリエーションに親しんでいる。

まち・ひと・しごと目標 —

指標 1



週1回以上スポーツを行っている人の割合（%）

週1回以上スポーツを行っている人の割合

※アンケートは不定期で実施している。R2、R3は実施なし。

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 48.4 | — | — | 60 |

指標 2

—

—

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実 施 内 容

【新規】

市民スポーツ教室の中でポッチャ競技を取り入れたり、オリンピックの土井杏南選手を招いて短距離走測定会を実施する等、東京2020オリンピック・パラリンピックに関連した事業を行った。

【継続】

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックを踏まえた本市のスポーツ施策の方向性やスポーツ・レクリエーションの推進方策について、スポーツ推進審議会及びスポーツ推進委員会議を開催し、検討を行った。
- ・市民総合体育大会実行委員会及び体育協会に補助金を支出し、各団体の運営支援を行った。
- ・市民体育振興奨励補助金及び青少年スポーツ振興補助金を支出し、市民・団体の活動を支援し、市民のスポーツ・レクリエーションの振興に努めた。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図るため、オリンピック・パラリンピック室と連携し、支援部会（機運醸成・文化教育部会）を開催した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【スポーツ推進審議会】

昨年の市民体育祭については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できず、残念だったが、今年度については、現時点（令和3年7月）における実施時間や内容等の方向性などは、コロナ対策を踏まえており、工夫されていると感じた。実施については、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により、判断する必要がある。

3 進 捗 状 況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

市民総合体育大会、ロードレース大会等は、新型コロナウイルスの感染拡大等により中止となったが、ウォークラリー大会、市民スポーツ教室及び小学生スポーツ教室等については、感染防止対策により、実施することができた。

また、スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会議を例年どおり開催し、各委員から御意見をいただき、施策及び事業に取り入れることが可能なものについては、反映できるように努めていることや、各種補助金についても継続的に実施している。

これらのことから、概ね順調であると判断する。

【外的要因】

昨年8月以降の新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、秋に開催を予定していた事業等の一部が中止となった。

4 必 要 性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

・平均寿命が延びている中で、単なる寿命の長さではなく、健康で長生きすること（健康寿命）がクローズアップされている。

・収束の兆しが見えないコロナ禍の中にあっても、身体と精神の健康の維持のため、スポーツをすることへの関心が高まっている。

・働き方改革や新しい生活様式が広まり、仕事以外の生きがいや交流の場が求められ、スポーツがその役割を期待されている。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|----------------------|---------------------|--------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | スポーツ振興事業 | 26,716 | 25,978 | 26,954 | 継続 |
| 2 | スポーツ団体等補助事業 | 21,738 | 18,160 | 20,711 | 継続 |
| 3 | オリンピック・パラリンピック事業【再掲】 | — | — | — | 休止・廃止 |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 48,454 | 44,138 | 47,665 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|--------|--------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 48,454 | 44,138 | 47,665 |

6 現状と課題の分析

- ・開催する事業について、多くの人が集うという従来の方法では、コロナ禍での感染防止とならないため、実施方法について検討する必要がある。
- ・市民がスポーツに親しむきっかけ作りとして、事業内容や周知方法を検討する必要がある。
- ・体育施設は多くの人が利用しているが、施設・スペースは限られており、効率的な利用方法を検討するとともに、体育施設以外のできる運動の紹介なども必要である。

7 今後の展開

- ・昨年度、第2期朝霞市スポーツ推進計画を策定したところであり、今後、各種施策により、市民がスポーツに触れる機会を提供し、「みる・ささえる・つながる」スポーツから「する」スポーツにつなげ、同計画の目標である「20歳以上の市民のうち、60%が週1回以上スポーツを行うこと」を目指していく。
- ・体育施設の指定管理者である文化・スポーツ振興公社とさらに連携を深め、市民への啓発及び事業実施を進める。

8 行政と市民の役割分担

- ・体育協会やスポーツ関係団体、自治会・町内会などとの連携を図るとともに、市民の意見を取り入れながら、効果的に事業を展開していく。

9 所管部の総括

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、市民総合体育大会市民体育祭、ロードレース大会等の主要事業及び市民総合体育大会種目別大会等の半数以上が中止となった。
- ・各種大会、事業等は、市民の間にスポーツを普及し、市民の親睦と健康増進につながり、スポーツ・レクリエーションの振興を図る上で重要なものであり、来年度以降においては、新型コロナウイルス感染症の状況等を注視しながら、関係団体等と連携を図り、感染防止対策により、事業の継続的な推進に努めたい。

332 利用しやすい施設の提供



担当課 生涯学習・スポーツ課
 関連課 —

目指す姿

スポーツ施設の修繕や大規模改修を計画的に実施することにより、ユニバーサルデザイン等を考慮した、安心して利用できる施設・設備が整っている。また、利用者の声を反映した施設の良好な管理・運営がされている。

まち・ひと・しごと目標 —

指標 1

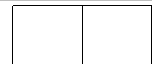


体育施設（14施設）の利用率（%）

体育施設（14施設）の利用率

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 60.6 | 61.6 | 61.6 | 62 |

指標 2



—

—

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実施内容

【新規】

- ・総合体育館については、大規模改修が令和2年度をもって完了したため、令和3年度は、市の基本方針に基づき、使用区分の変更や使用料等に係る改正についての検討を行い、実施した。
- ・令和3年度において、武道館の改修工事に向けて、関係部署とともに検討を行った。

【継続】

- ・社会体育施設（総合体育館、武道館、滝の根テニスコート）及び公園体育施設について、指定管理による管理運営を実施した。
- ・溝沼子どもプールの維持管理を実施し、開場した。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【スポーツ推進審議会】

総合体育館の使用区分の変更にあたっては、利用者間でトラブル等が起きないように、清掃や後片付けも含めた使用時間を遵守するよう、利用者への周知等が必要である。

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

溝沼子どもプールは、令和2年度においては、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となったが、令和3年度は1日2部制とし、定員を設けるなど、施設内が密にならない工夫を行い、開場することができた。

総合体育館については、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種会場となったことから、4月から12月中旬まで一般への貸出を休止していたが、その後は、通常の貸出を行っており、他の体育施設においても、例年どおり運営を実施している。

また、武道館の改修工事に関して、関連部署との協議を行うなど、検討を進めていることから、進捗状況については概ね順調であると判断する。

【外的要因】

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

・施設の経年劣化は進行しており、適切に維持管理を行う必要がある。また、老朽化が指摘される施設については、長寿化や耐震化などの大規模改修が計画されている。

・健康管理や仕事以外のコミュニケーションなどへの市民の関心の高まりから、スポーツをする場所のニーズは引き続き、増加していくものと考えられる。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|-----------------|---------------------|---------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 滝の根テニスコート管理運営事業 | 18,770 | 19,053 | 19,066 | 継続 |
| 2 | 総合体育館管理運営事業 | 47,769 | 50,807 | 53,667 | 継続 |
| 3 | 武道館管理運営事業 | 9,916 | 11,705 | 10,086 | 継続 |
| 4 | 溝沼子どもプール管理運営事業 | 33,753 | 14,893 | 38,464 | 継続 |
| 5 | 溝沼子どもプール施設改修事業 | 4,677 | 2,897 | 1,363 | 継続 |
| 6 | 公園体育施設管理運営事業 | 77,724 | 82,262 | 79,927 | 継続 |
| 7 | 滝の根テニスコート施設改修事業 | 155 | 155 | 151 | 継続 |
| 8 | 武道館施設改修事業 | 388 | 388 | 3,332 | 拡充 |
| 9 | 公園体育施設改修事業 | 388 | 4,513 | 151 | 継続 |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 193,540 | 186,673 | 206,207 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|---------|---------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 193,540 | 186,673 | 206,207 |

6 現状と課題の分析

- ・限られた財政状況の中で、関係部署と調整しながら、各施設の必要な改修・修繕を行っていく必要がある。
- ・新規に開設する施設が見込めない中で、既存施設のさらなる効率的な利用を進めていく必要がある。
- ・新型コロナウイルスの感染防止のため、適切な対策を行う必要がある。

7 今後の展開

- ・文化・スポーツ振興公社とのさらなる連携により、各施設の効果的な維持管理と施設運営を行っていく。
- ・関係部署と調整を図り、必要な改修・修繕を適切に実施していく。

8 行政と市民の役割分担

体育協会やスポーツ推進審議会等の意見のほか、利用者や市民の意見を収集する機会を設け、ニーズを的確に捉え、施設の運営に生かしていく。

9 所管部の総括

総合体育館の大規模改修が令和2年度をもって完了したことから、市の基本方針に基づき、令和3年度において、使用区分の変更や使用料等に係る検討を適切に行い、令和4年4月から改正することとした。

令和3年度において、武道館の改修工事に向けて、関係部署と検討を行い、令和4年度予算に改修工事に係る設計委託料を計上した。今後、具体的な工事の内容等について、さらに関係部署と協議を行い、検討を進めていく。

また、他の体育施設においても、計画的に必要な修繕、改修工事等についての検討を進めていく。

341 歴史や伝統の保護・活用



担当課 文化財課

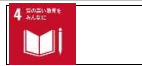
関連課 —

目指す姿

市民が地域の歴史や文化財について身近に接する機会が増え、次世代に地域文化が歴史や伝統とともに継承され、郷土に対する愛着や文化財保護の理解と認識が深まっている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標2 地域の特色を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる
(イ) 市民の地域に対する誇りと愛着の醸成

指標 1



博物館展示回数（回）

博物館のテーマ展、企画展、ギャラリー展等の開催回数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 6 | 7 | 7 | 6 |

指標 2

【まち・ひと・しごと】



博物館を授業等で使用した市内小中学校数（校）

博物館を授業等で使用した市内小中学校数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 15 | 7 | 10 | 15 |

1 実施内容

【新規】

- ・指定文化財湧水代官水境界フェンス移設修繕
- ・指定文化財湧水代官水枯損木伐採及び高木剪定
- ・重要文化財旧高橋家住宅茅葺屋根（大棟）補修
- ・重要文化財旧高橋家住宅枯損木伐採
- ・「朝霞にファン・ゴッホ！ー日本初公開の水彩画に観るファン・ゴッホの新たな魅力ー丸沼芸術の森コレクション展」
- ・展示ケース、展示用照明器具購入

【継続】

- ・各種媒体を通じての文化財に関する普及啓発。
- ・文化財保護関係団体への補助金交付。
- ・指定文化財の柵塚古墳歴史広場、湧水代官水、広沢の池、二本松の保護、管理。
- ・埋蔵文化財の確認調査(試掘調査)、発掘調査、整理、資料作成、出土品保存処理、調査報告書刊行。
- ・埋蔵文化財センターの維持管理。
- ・重要文化財旧高橋家住宅の維持管理、活用事業2回、年中行事展示14回。
- ・博物館運営事業

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

・現在もコロナの影響は続いており、文化活動が制限されるのは残念であるが、県境をまたぐ移動が制限される中、身近な文化施設に行く機会も増えると思う。施設を予約制にするなど工夫し、厳しい環境のなかでも引き続き御努力をお願いしたい。

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

指標1については、コロナ禍においても代替展示を行うことにより達成できている。

指標2については、コロナ禍により、中学校の利用が減少している。

なお、埋蔵文化財調査件数について、市内開発事業の増加に伴い、目標値2件に対し、令和元年度5件、令和2年度9件、令和3年度13件（見込み）となっており、目標を大幅に上回る状態が続いている。

【外的要因】

新型コロナウイルス感染症の影響により、計画した事業の中止・延期・変更が続いているため、今後は、感染症対策を講じて実施できる事業を計画し、取り組んでいく。

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

コロナ禍における遠方への外出の抑制や、シティ・プロモーション等の動きのなかで、地域の歴史、文化にアイデンティティを求め、文化財などの歴史資源を観光資源として使用しようとする動きが活発化してきており、文化財に対する意識が高まってきている。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|---------------|---------------------|--------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 文化財保護普及事業 | 7,450 | 8,735 | 7,360 | 継続 |
| 2 | 指定文化財等保護管理事業 | 17,256 | 17,040 | 19,944 | 継続 |
| 3 | 埋蔵文化財調査保存事業 | 27,639 | 32,235 | 31,738 | 拡充 |
| 4 | 埋蔵文化財センター管理事業 | 6,764 | 7,804 | 7,800 | 継続 |
| 5 | 旧高橋家住宅管理運営事業 | 15,866 | 15,636 | 23,550 | 継続 |
| 6 | 博物館運営事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 74,975 | 81,450 | 90,392 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|--------|--------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 74,975 | 81,450 | 90,392 |

6 現状と課題の分析

博物館が開館から25年経ち、また、文化財保護係と併せて文化財課となり14年が経過する中で、経年劣化等により、文化財の十分な活用が図れない状況にある。

コロナ禍におけるオンライン等の事業展開を行うにあっても、これらの文化財が広く活用できるよう、適切な保存環境の整備及び調査、整理、保存措置等を行う必要がある。

7 今後の展開

文化財の保護・管理とともに、文化財を市の特徴を示すPRモーションとして使用できるよう、関係各課との情報共有を行っていく必要がある。

8 行政と市民の役割分担

（市）・旧高橋家住宅で、重要文化財の保護に従事するボランティアを育成する。・歴史や伝統の保護・活用のために活動している市民団体について、補助金を交付し、必要に応じて相談にのるとともに、関連情報の提供や活動支援を行う。・博物館で、学芸員と研究団体が連携し、調査等を行う。

（市民）・旧高橋家住宅登録ボランティア・文化財保護関係団体・博物館講座室利用団体

9 所管部の総括

指定文化財について、定期的に状況観察ないし必要に応じた措置を施し維持管理できたこと、コロナ禍において、感染症対策を講じながら可能な限り事業を展開したことは重要であると考えます。

今後においても地域的特色について学術的な調査研究を進め、後世に文化・歴史を伝授するよう努めていく。

342 芸術文化の振興



担当課 生涯学習・スポーツ課

関連課 —

目指す姿

市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会を得るとともに、より身近で優れた芸術文化に親しめる機会が提供されている。

各種団体やグループをネットワーク化し、市民の自主的な活動の充実と活性化をはかり、芸術文化に感心を持つ市民の活動が促進されている。

まち・ひと・しごと目標 —

指標 1

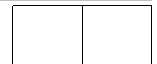


文化祭入場者数（人）

朝霞市文化祭の入場者数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| 12,366 | 0 | 2,196 | 12,970 |

指標 2



—

—

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実施内容

【新規】

コロナ禍による芸術文化活動の縮小を受け、活動家に対する新たな補助制度を行うことについて検討を行った。

【継続】

・令和3年度においては、コロナ禍の中での2年目を迎え、文化協会とともに取組方法等を工夫しながら、「芸術文化展」や「文化祭」などの展示部門については開催した。（「市民芸能まつり」、「芸能のつどい」は中止。）また、夏休み親子陶芸教室も応募定員数を縮小するなどして実施することができた。

2 審議会等第三者機関の評価・意見

【外部評価委員会】

朝霞市文化協会などの市内芸術文化の代表的な団体や、生涯学習ボランティアバンクに登録されている方々と連携し、ぜひ文化活動が活性化するよう取組を進めてほしい。

3 進捗状況

1 2 ③ 4 … おおむね順調

【判断の根拠】

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、文化協会と共催する芸術文化展、文化祭などの展示、発表部門のほか、夏休み親子陶芸教室や夏休み親子手作り講座は中止とした。令和3年度はコロナ禍の2年目ではあったが、文化協会と調整し、展示部門においては、感染症対策を講じて実施することができた。また、夏休み親子陶芸教室も定員数を減員するなど、感染症対策により実施した。

【外的要因】

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、事業の自粛や縮減などとならざるを得ない中ではあったが、芸術文化事業を少しでも開催できたことは施策の推進につながった。

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

新型コロナウイルス感染症の脅威の中においても、文化や芸術を継承し、伝え広めていくことや、親しんでいくことは、暮らしや心に豊かさをもたらすものである。よって、芸術文化の振興に努めていくことで、次世代への担い手を継承し、市民それぞれの交流機会ともなり、コミュニティの活性化にもつながるものと考え。さらに、豊かな市としての構築が図られることで、その必要性は大きなものである。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|--------------|---------------------|-------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | 芸術文化振興事業 | 11,419 | 7,190 | 7,457 | 継続 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 11,419 | 7,190 | 7,457 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|--------|-------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 11,419 | 7,190 | 7,457 |

6 現状と課題の分析

コロナ禍により、従前のような文化事業を開催することは困難となっているが、文化協会と意見交換を行い、関係団体等と協働するなどして、積極的に施策の展開を行っている。芸術文化施策は、子どもから高齢の方、障害のある方など全ての方が、分け隔てなく、芸術文化に触れ、親しむことができるものとして、施策の推進を図らなければならない。

7 今後の展開

コロナ禍においても、令和3年度は取組み方を検証し、事業展開を行ってきた。収束の見通しが立たない中ではあるが、子どもから高齢の方、また、障害のある方など全ての方が参加できる事業を実施し、芸術文化の継承に努めていく。令和4年度の芸術文化団体への補助制度施行予定により、芸術文化活動が活性化され、市民文化がさらに豊かなものとなるよう、継続した事業展開を行う。

8 行政と市民の役割分担

市は、文化協会との協働により、文化祭や芸術文化展、市民芸能まつりを開催する。

9 所管部の総括

令和2年度は、コロナ禍により、芸術文化事業がほぼ、中止となったが、今年度は臆することなく、できる限りの工夫を凝らし、文化祭の展示部門や芸術文化展、夏休み親子陶芸教室などを開催したことは評価に値する。コロナ禍の中でも、芸術文化を披露する者、それを愛で、実践する者の後押し、支援を行うためにも芸術文化施策は更に推進していかなければならない。

343 地域文化によるまちづくり



担当課 地域づくり支援課

関連課 政策企画課、産業振興課

目指す姿

朝霞市民まつり「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、地域文化が継承されており、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちとなっている。

まち・ひと・しごと目標 基本目標2 地域の特徴を生かし魅力にあふれた選ばれるまちをつくる
(イ) 市民の地域に対する誇りと愛着の醸成

指標 1 | 【まち・ひと・しごと】

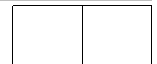


地域イベント参加者数（人）

本市を代表する四季のイベント（黒目川花まつり、彩夏祭、朝霞アートマルシェ、北朝霞どんぶり王選手権）の参加者数

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|---------|--------|---------|------------------|
| 800,000 | 0 | 0 | 820,000 |

指標 2 |



-

-

| R元年度実績 | R2年度実績 | R3年度見込み | 最終年度目標 (R7年度) |
|--------|--------|---------|------------------|
| | | | |

1 実施内容

【新規】

（この欄は空欄です）

【継続】

- ・コミュニティ協議会に補助金を交付【補助金】運営費補助金405千円、市民まつり補助金4,810千円を補助。
- ・よさこい鳴子踊りに参加する小・中学校に補助金を交付【補助金】市内小学校1校に99千円を補助。
- ・コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営。
- ・朝霞市民優待の実施（佐久市、東根市、西伊豆町/ホテル・旅館の宿泊料10%割引、瑞浪市/3館共通パスポート配布）

2 審議会等第三者機関の評価・意見

様々な専門知識、技能を持ったその道のプロが住んでいるので、地域の文化活用を進めていく上で協力を得ながら事業を進めてほしい。

3 進捗状況

1 ② 3 4 … やや遅れている

【判断の根拠】

新型コロナウイルス感染症により、彩夏祭をはじめ地域イベントが中止となり、指標を達成できなかったが、開催に向けて、実行委員や市民、関係機関が協力・連携して取り組んだことで、地域文化の継承につなげることができた。

【外的要因】

新型コロナウイルス感染症の影響により、彩夏祭をはじめ、各種イベントが中止となるなど、目標を達成することができなかった。

4 必要性

1 2 ③ 4 … 社会的なニーズは現状と変わらない

地域文化を育て、発信し、まちを盛り上げるためにも彩夏祭をはじめとする四季のイベントの果たす役割は重要であり、ふるさと朝霞の文化として、市民の期待度は引き続き高いと考えられるため、引き続き、地域活性化のために積極的に支援する必要がある。

5 施策構成事務事業の優先度評価

※事務事業評価の判定を踏まえて、今後の方向性を判断

| 番号 | 施策を構成する事務事業名 | 総コスト（事業費+人件費 単位：千円） | | | 今後の方向性※ |
|----------|----------------------|---------------------|-------|----------|---------|
| | | R1 決算 | R2 決算 | R3 決算見込み | |
| 1 | コミュニティ推進事業【再掲】 | - | - | - | 継続 |
| 2 | 国際・都市間交流事業 | 4,681 | 5,079 | 2,844 | 継続 |
| 3 | オリンピック・パラリンピック事業【再掲】 | - | - | - | 休止・廃止 |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 13 | | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | | | | | |
| 21 | | | | | |
| 22 | | | | | |
| 23 | | | | | |
| 24 | | | | | |
| 25 | | | | | |
| 26 | | | | | |
| 27 | | | | | |
| 28 | | | | | |
| 29 | | | | | |
| 30 | | | | | |
| 31 | | | | | |
| 32 | | | | | |
| 33 | | | | | |
| 34 | | | | | |
| 35 | | | | | |
| 36 | | | | | |
| 37 | | | | | |
| 38 | | | | | |
| 計（単位：千円） | | 4,681 | 5,079 | 2,844 | |

総コスト（事業費+人件費）の
経年変化 単位：千円

| | | |
|-------|-------|-----------|
| R元年度 | R2年度 | R3年度(見込み) |
| 4,681 | 5,079 | 2,844 |

6 現状と課題の分析

人口の流入が多く、ふるさと意識が希薄になりがちで、かつ独自の文化が育ちにくい状況にある。今後においては、ふるさと意識を形成し、市民が地元へ愛着と誇りを持つよう、「彩夏祭」「黒目川花まつり」「朝霞アートマルシェ」「どんぶり王選手権」などの地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。また、コロナ禍においても、安全にイベントを開催できるよう取り組む必要がある。

7 今後の展開

「彩夏祭」「黒目川花まつり」「朝霞アートマルシェ」「どんぶり王選手権」などの地域独自の文化が市民の間に根付くよう積極的に情報発信を行っていく。

8 行政と市民の役割分担

四季のイベントは、市民が主役のイベントであり、主催団体である市民まつり実行委員会や商工会等が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、市が担っている役割と市民が担っている役割が適当であるか両者で確認していく。

9 所管部の総括

市民まつりなど地域イベント活性化のため、市としても必要な支援をしていく。